

令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

栃木県

（地域における現状・課題）

- 運動部員数の減少により単独でチームを組めない部活動が増えてきている。そのため、近隣の学校や地域で協力しながら練習や大会に参加するしくみが必要である。
- 部活動は勤務時間外に行われることが多いことから、部活動指導を行いながら休日を含めた在校等時間をなくすことは困難である。部活動を地域が担える体制を構築し、生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会を確保することが必要である。
- これまでの学校部活動を通じた教育的意義を地域の活動においても継承・発展させていくには、学校・行政・運営団体の三者連携と教員の兼職兼業を含めた指導者の確保が必要である。

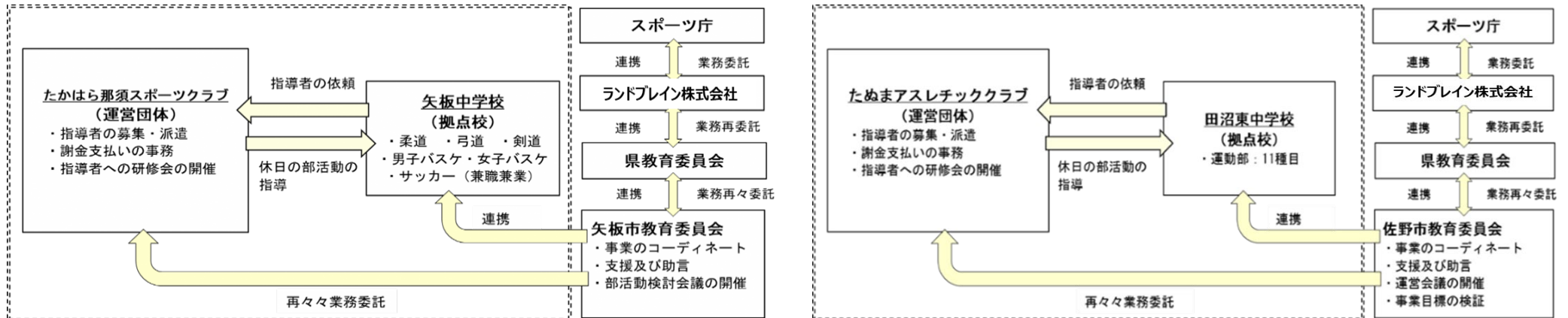
（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

- 栃木県部活動改革検討委員会の開催
- 地域移行支援コーディネーターによる効果的な支援（部活動の地域移行へ向けた普及・啓発活動）
 - ・教育事務所、市町教育委員会、総合型地域スポーツクラブ等へ説明会の開催
 - ・各市町の現状把握・意見交換
- 実践研究校への視察（矢板市立矢板中学校、佐野市立田沼東中学校）
- アンケートの実施（教員の部活動に関する意向調査・実践研究校へのアンケート）

（実践研究の成果）

- 競技経験のある地域指導者の専門的な指導により、生徒の体力や技術、参加意欲の向上につながった。
- 実践研究を始めるにあたり、地域指導者を対象にした研修会を開催したことで、地域指導者の適切な指導につながった。
- 地域部活動を実施することで、約9割の教員が「負担軽減につながったと感じた」とアンケートで回答した。
- 総合型地域スポーツクラブの業務内容についての理解が深まり、地域移行を進める上での貴重な情報を得ることができた。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

佐野市

（地域における現状・課題）

- ・生徒数（部員数）や教員数（顧問教員数）の減少により、部活動の数をこれまで通り維持することが困難になり、休廃部に至る可能性がある。部活動の休廃部により生徒が希望する種目を選択できない状況がある。また、専門的な指導のできる顧問教員の異動により、それまで活発に行ってきた部活動が停滞することがある。
- ・学校部活動が教育活動において果たしてきた意義や役割などの成果を地域部活動へ移行する際にも継続できるよう地域指導者を対象にした研修会（事故・セクハラ・体罰防止含む）を開催するなどして資質向上に努めていく必要がある。
- ・顧問や地域指導者が一貫した指導方針で指導に当たれるよう連携できる体制づくり、多様な競技種目における地域指導者の確保、学校職員に頼らない学校施設の管理体制（校舎等の開錠や施錠）づくりも必要である。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：非営利活動法人ためまアスレチッククラブ / 佐野市教育委員会

活動場所：田沼東中学校、佐野市社会体育施設

指導者：地域指導者（11名）

移動手段：徒歩、自転車

活動種目：陸上競技（男女）、サッカー、バスケットボール（男女）、

バレーボール（男女）、ソフトテニス（男女）、卓球（男女）、剣道

会費等：徴収なし

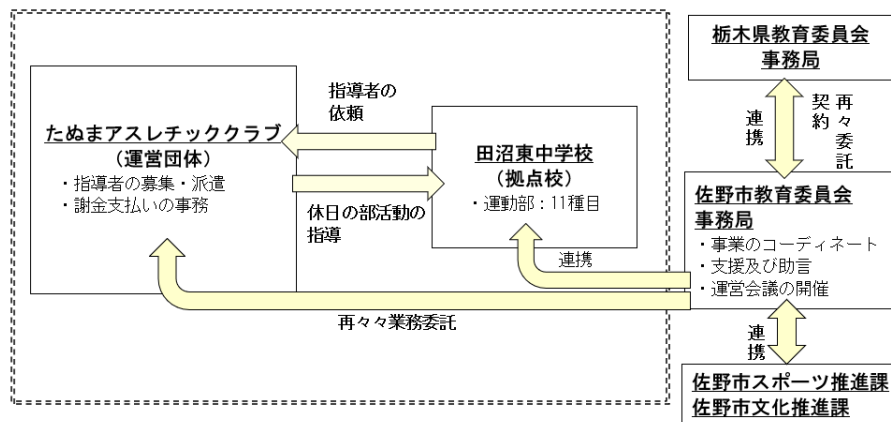
保険：（生徒：800円、指導者：1,850円）

【公益財団法人スポーツ安全協会】

（実践研究の成果）

生徒が競技経験や競技の専門的知識を有する地域指導者から指導を受け、8割以上が「指導がわかりやすい」、「体力や技術が向上した」と感じるなど好意的に受けとめている。休日の学校部活動の指導の一部を地域指導者に任せることで、教職員の負担感の軽減を図ることにつながった。総合型地域スポーツクラブが運営団体となり、地域移行に伴う運営事務業務の内容や量について把握ができ、全市に取組を広げる際の貴重な実践になった。実践の開始にあたり、地域指導者を対象に研修の時間を設けた。適切に指導をするための留意事項について伝えることができ、適切な指導に繋がった。

（運営体制図）



令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

矢板市

（地域における現状・課題）

- ・生徒数や教員数の減少により生徒が希望する種目を選択できないことや、顧問教員の異動により部活動が停滞し休廃部にいたる可能性がある。
- ・教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築が必要である。
- ・学校部活動はこれまで学校教育活動において重要な意義や役割を果たしてきた。地域指導者の意識改革や研修会を活用した資質向上が必要である。
- ・学校部活動顧問や地域指導者が一貫して指導に当たれる協力体制の構築が課題である。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：特定非営利活動法人 たかはら那須スポーツクラブ

活動場所：矢板市立矢板中学校、矢板市の施設（武道場、弓道場）

指導者：地域指導者

移動手段：徒歩、自転車

責任主体：特定非営利活動法人 たかはら那須スポーツクラブ

活動種目：弓道、柔道、剣道、男子バスケットボール、女子バスケットボール、サッカー

会費等：徴収なし

保険：生徒1人800円（スポーツ安全保険）

（実践研究の成果）

- ・対象となる運動部活動顧問の時間外勤務総時間数が削減され、教員の負担軽減を図ることにつながった。
- ・専門的な技術指導による生徒の意欲や技術の向上を図ることができた。
- ・平日も指導に携わっている運動部活動補助員や部活動指導員が週休日も積極的に参加し、顧問と連携しながら一貫した指導を行うことができるように努めた。

（運営体制図）

